

2021年9月にココペリを長年支えてくださった**春うらら**と**リラッ和**が引退を迎えました。

今まで多くのココペリファミリーを「病院・旅行・観光・物件探し」へ連れていってくださり、催しイベントがある時には、各方面へ大きな機材を運びイベント成功に協力し、引っ越しする人がいる時には、たくさんの荷物を運び新生活のスタートに携わってくださりました。

いろんな人の楽しい時や悲しく寂しい時もあれば笑顔になる瞬間も共有し、見守ってくださっていたと思います。

春うらら & リラッ和  
私の身近な車で一番の走行距離でした。

春うらら & リラッ和  
まるでタッキー & 翼のように輝いていました！

春うらら  
初めて運転したハイエースでした。  
初めて新御堂筋で故障して道路で1時間すごした車でした。

ありがとうございます。  
お疲れ様でした。

—川野洋—

リラッ和  
初めて運転したミニバンでした。  
初めて交差点でエンジンストップした車でした。

船乗りには知られ語り継がれている精霊がいる。船のことを心から大切に扱っている者にのみ、その船に宿り、いざという時に危険を知らせてくれるという。

私も春うらら & リラッ和の晩年を伴走することができたその一人でした。

幾度もピンチに遭遇していながらも、それ以上の危険に晒されることはなかったのも、誰かが守ってくれていたからだというような気がします。

そしてその意志はきっと、同じように大事にされている後輩車たちによって受け継がれていくことでしょう。

ありがとうございます！お疲れ様～

—陸智豪—



—リラッ和—  
2006年6月16日  
～2021年9月11日  
(15年南)  
最終走行距離  
257,231km

## 寄せ書きをお届けします

**僕** は人づかいの荒い方だけでも、あれほど酷使した同僚がいないのは間違いない。  
**彼** は、一般的な車イスとストレッチャー式使用者を同時に乗せることができ、横のイスにヘルパーを座らせ、さらに前列に補助イス含め3人（子どもを含めれば4人）、最前列には運転手含め3人、計最大11人を乗せても楽々走ってしまうのだ。

**当** 時、学童保育所に通う利用者の介護に入っていた僕は、遠足やキャンプ、発表会があれば、大量の荷物や大道具、乗せられるだけの子どもと利用者・ヘルパーと移動し、日曜は利用者3～4組と希望する学童3人ほどを乗せて、関西中の遊び場をしらみ潰しに、山を越え、高速道路を飛ばして、訪ねて回っていた。

**そ** の賑やかな道中を桜色のボディで包み、無理めなミッションを穏やかなエンジン音と安定した走りで、淡々とこなしてくれた。彼のタフな体躯は、きつい登り坂も軽やかに越え、目立った不具合も故障もなく、事故や違反にも無縁で、その高潔な精神は、誰の悪口も言わず嘲笑ひとつもせずに、自分に課せられた仕事を全うし続け、何の賞賛も求めないのだった。

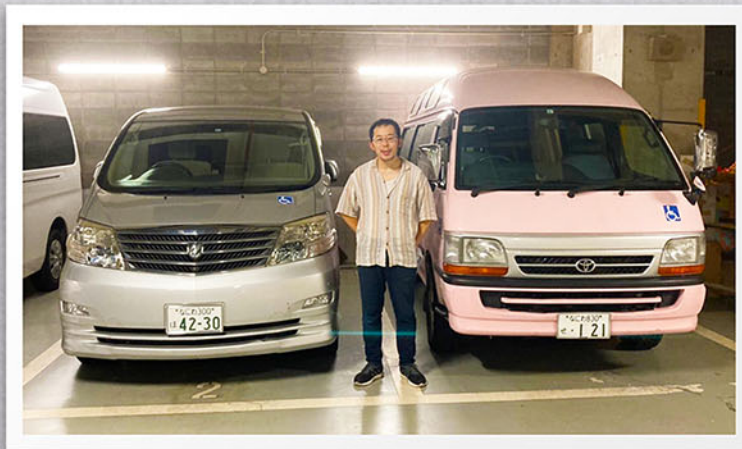
**せ** めてひとこと、彼の広い懐に包まれた皆の思いを伝えておこう。  
ありがとうございます！あなたとの時間は、今も桜色した思い出として、僕たちの心にある。

—吉澤託—

満身創痍ながらも、黙々と、人と人を繋ぎ、人と社会を繋ぎながら、走り続けたあなたを尊敬し、愛してる。

—朴宇—

—春うらら—  
2004年4月10日  
～2021年9月5日  
(17年南)  
最終走行距離  
193,614km



—尾川知—

兩名には筆者よりもはるかに長いキャリアがあり、筆者の仕事はいつもおふたりの活躍とともにありました。何度も大阪―京都間を往復しましたね。運転席に座らせてもらうことはほとんど無かったですが、おふたりの座席はいつもあたたかく、そしてしっかりと僕らを包みこんでくれ、行先までの道のりを安らかに過ごさせてくれました。ひとからひとへの気持ちを載せて、これからは自分の好きなどころへ向けて走りつけてください。本当にお疲れさまでした。

後になって「春うらら号」という名前は、有名な競走馬である「ハルウララ」に由来するという話しを聞いた。ハルウララの馬券は当たらないことで評判だったが、それを車の名前にすることで「当たらない」御利益にあずかろうという縁起かつぎが込められているという説明を受けた記憶がある（間違っていたらすみません）。「リラッ和」についてはこの記事を書くために由来をたずねた。以前の御利用者さまの名前とその御家族好きなりラックマというキャラクター名を合わせた命名とのことだ。リラッ和はもともとその御家庭で活躍されていて、その後活動の場をココペリに移したらしい。ひとからひとへのつながりを大切にしてきたココペリらしいエピソードである。

春うらら―季節はずれの形容句だが、筆者にとってはお世話になった先輩への愛称でもある。今年（二〇二二年）NPOココペリ121は、長年にわたって素晴らしい仕事をされて来た二人の同僚を送り出した。春うらら号とリラッ和（リラッカズ）である。どちらともとても可愛らしい名前だ。乗用車にニックネームをつけるという習慣とともに、その呼称に微笑ましい印象をもったことを思い出す。

引退する二人の先輩への送辞